



「日本の紅をつくる町」事業 加速

「白から紅へ」—— シンボル「紅花先染め振袖」制作



紅花生産量日本一の町として、「紅（あか）」をテーマに地域活性化を目指す町の取り組みである「日本の紅（あか）をつくる町」事業。その第一弾として、蚕の飼育、繭からの糸取り、染色、機織りまでの全ての工程を町民の手で行う「紅花先染め振袖」制作がスタートしました。

これは、白鷹町産にこだわった、今までにない紅（あか）の象徴（シンボル）となるものをつくることで、町のイメージアップにつなげようというコンセプトから始まったもの。紅花の色素のうち、わずか1%の紅色で真紅に染め上げた振袖を、町民の皆さんはもとより全国の皆さんにご覧いただき、「日本一の紅（あか）」が白鷹町にあるということが実感してもらおうとがねらいです。

1. 蚕桑小学校で毎年行われている蚕の飼育。幼虫から繭になるまで大事に育てる児童たち 2. 「しらたか天蚕の会」の皆さんが、繭一つひとつから手作業で糸を繰る 3. 町内産の紅餅を使い、真っ白な絹糸が鮮やかな紅色になるまで染めの作業を繰り返す（小松織物工房・十王）

SHIRATAKA RED



県内の市町村が発行、発表した広報媒体（広報紙、ホームページ、写真、映像、広報企画）を対象とした「山形県市町村広報コンクール」の審査結果が発表され、「広報しらたか」11月号の表紙が組み写真の部で特選に選ばれ、全国広報コンクールへ推薦されました。また、「広報しらたか」8月号が広報紙の部・町村部で入選1席に選ばれました。

取材にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。今後も、読みやすく、親しみを持っていただける広報紙を目指してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

→紅花の特集を掲載した「広報しらたか」8月号（255頁）↑白鷹の紅あか）いものである「シラタカ・レッド」を集めた「広報しらたか」11月号の表紙

